

研究指定課題 子どもの育ちと学びを小学校につなぐ幼保小連携を通した円滑な接続

研究  
主題

# 幼児期の思考力を育てる保育の在り方 ～対話的な学びに焦点をあてて～



深まる



どうしよう

▲はどうだろう？

あかった！



つながる



やってみよう

ほくも！

うれしい！



出会う



…なんだらう？

おもしろい

## 挨拶

杉並区教育委員会教育長 井出 隆安

幼児期における「学び」とは、無自覚に行われるものであり、幼児自身は学ぶことを意識しているわけではありません。幼児は、遊びの中で、楽しいことや好きなことに集中することを通して、生きるための基礎を学んでいきます。

本園では、幼児が、日々の遊びや生活の中で繰り返される「人」「モノ」「コト」との対話を通して学んでいく過程を明らかにし、幼児期における思考力の育成と、発達に応じた保育者の援助と環境の在り方について、研究を進めてきました。本園の研究成果が、多くの就学前教育施設の教育・保育や、小学校におけるスタートカリキュラムに生かされ、双方の教育活動が更に充実することを願っています。

## はじめに

杉並区立高井戸西子供園長 五十嵐 美緒子

本園は、杉並区立子供園に転換して5年目を迎えました。

「あそびがすき ともだちがすき じぶんがすき」を教育目標に、遊びを大切に、教育・保育を進めてきました。この度、杉並区教育委員会教育課題研究指定を受け、「幼児期の思考力」に注目し、対話的な学びに焦点を当て、教育・保育の在り方を探ってきました。

研究を進める過程で、幼児だけでなく、保育者も対話を重ねることの大切さを実感し、考えを広げ、深めることができました。

「遊びは学びの宝庫」と幼児の学びを大切にしながら、研究を支えてくださった河邊貴子先生、そして、貴重な研究・発表の機会をくださった杉並区教育委員会の皆様に心よりお礼申し上げます。



# 対話的な学びを通して、

## 幼児期の思考力

仮説

幼児期の思考力は、幼児が自身を取り巻く世界と対話する中で、様々な思いを巡らせ、考えを重ね育っていく

本研究では、幼児期の思考力を次のような姿と捉えた。

- 遊びや生活の中で、様々モノのや人に興味、関心をもって自ら関わる。
- 感じたり関わったり自分の中に取り込んだりしたことを基に、思いや考えを表現したり伝えたりし、自らの考えを広げたり深めたりする。
- 興味や関心の対象に自ら関わり、試行錯誤を繰り返しながら確かめたり、探究したりする。

## 研究の

### 1 事例検討

- 「対話的に学んでいた」と感じた場面を事例に起こし、事例検討シートにエピソードを記入する。
- 幼児の動きや言葉の中から対話している対象や対話を通して学んでいることを分析する。
- 幼児の対話に焦点を当て、具体的に変容した姿や学びを捉えるとともに、指導の在り方を探る。
- それぞれの事例の対話的な学びの姿について検討する。

#### 事例検討シート

子どもの姿	保育者の思い
<p>水たまり(モノ)と出会って、関わろうとしている。</p> <p>水だけをすくう方法に気付いている。</p>	<p>「水たまり(モノ)と出会って、関わろうとしている。」「水だけをすくう方法に気付いている。」「水たまり(モノ)と出会って、関わろうとしている。」「水だけをすくう方法に気付いている。」</p>
<p>一緒にいる友達(人)と、同じ場(モノ)で、動くことで遊びのイメージ(コト)が幼児の中で伝わる。</p> <p>友達と一緒に過ごすことが、嬉しいと感じ、友達とつながっている気持ちが強くなる。</p>	<p>「一緒にいる友達(人)と、同じ場(モノ)で、動くことで遊びのイメージ(コト)が幼児の中で伝わる。」「友達と一緒に過ごすことが、嬉しいと感じ、友達とつながっている気持ちが強くなる。」</p>
<p>年長組がしているリレーを見た経験(コト)から年中組の幼児が再現してみようとしている。</p> <p>見た「コト」から必要な「モノ」に気付き、自分たちで準備して、やってみようとしている。</p> <p>年長組と同じ「モノ」を使って同じ「コト」ができる嬉しさを感じている。</p>	<p>「年長組がしているリレーを見た経験(コト)から年中組の幼児が再現してみようとしている。」「見た「コト」から必要な「モノ」に気付き、自分たちで準備して、やってみようとしている。」「年長組と同じ「モノ」を使って同じ「コト」ができる嬉しさを感じている。」</p>



◆水たまり(モノ)と出会って、関わろうとしている。  
◇水だけをすくう方法に気付いている。

◆一緒にいる友達(人)と、同じ場(モノ)で、動くことで遊びのイメージ(コト)が幼児の中で伝わる。  
◇友達と一緒に過ごすことが、嬉しいと感じ、友達とつながっている気持ちが強くなる。

◆年長組がしているリレーを見た経験(コト)から年中組の幼児が再現してみようとしている。  
◇見た「コト」から必要な「モノ」に気付き、自分たちで準備して、やってみようとしている。  
◇年長組と同じ「モノ」を使って同じ「コト」ができる嬉しさを感じている。

◆自分が困っている「コト」を、どうやったら解決できるか、自分と対話をしている。  
◇葛藤して、友達に相談することに決めて、人との対話が生まれた。  
◇友達に分かってもらおうと言葉を探しながら一生懸命に伝えている。  
◇経験した「コト」から、仲間に相談しようと考えた。

エピソード  
分析

分析の視点

- ◆何(人・モノ・コト)と対話しているか
- ◇対話しながら考えていることは何か
- ◇対話を通して変化が見られた部分(=学び)はどこか

対話を引き出す  
援助・環境

「対話的な学び」の姿

分析をすることで明らかになった事例としての特徴

# 幼児期の思考力を育てる

## 対話的な学び

本研究では、『対話的な学び』を『自身を取り巻く世界と関わることで自ら変化していく姿』と捉えた。対話の対象は『自身を取り巻く人やモノ』さらに『自分自身の経験や自然事象、目の前の状況などのコト』とした。

- ・幼児は、対話を通して感じたり関わったり自分の中に取り込んだりしたことを基に、自分の思いや考えを表現したり、伝えたりし、自らの考えを広げ、深めていく。
- ・対話は、一つの対象だけでなく、様々な対象との対話が絡み合って深まっていく。



## 方法

### 2 「対話的な学び」の特徴を考える

様々な事例から「対話的な学び」の姿を抜き出し、そのつながりや特徴を検討する。

事例一覧・学びのつながり					29.3
○好きなこと（物や場）や自分のしたい遊びを見つけて、自分から関わって遊ぶ。 ○いろいろな材料や素材に触れながら自分のしたい遊びを楽しむ。	○自分の気持ちを表情や動き、言葉に表す。 ○みんなと一緒に過ごす楽しさを感じながら、のびのびと自分なりの動きを楽しむ。	○いろいろな遊びに興味をもったり、友達に関心をもったりして遊ぶことを楽しむ。 ○保育者や好きな友達と触れあったり関わったりして遊ぶ楽しさを味わう。	○一緒に遊びたい友達とのやり取りの中でイメージや自分の思いを出して遊ぶ。 ○自分なりに遊びの目的を持ち、自分の思いや考えを言葉にしながらか遊びを楽しむ。 ○友達とのやり取りを楽しみながら、自分たちで遊びを進めていく。	○自分なりに興味関心をもって遊びに取り組みんだり、試行錯誤しながらやりたい遊びを楽しんだりする。 ○気の合う友達と共通の目的をもって遊ぶ中で、自分なりの考えを出して遊ぶ。	○自分の力を発揮しながら、友達との遊びを十分に楽しむ。 ○共通の目的に向かって力を合わせたり、考えを出し合ったりして進んで遊びや生活に取り組み。 ○自分なりのめあてをもって活動に取り組み、挑戦したり工夫したりする。
3才		4歳		5歳	
・自分のやりたいことがある ・モノとの関係性 ・じっくりと対象世界と関わる	・大人が分かってくれることが嬉しい ・保育者との安定した関係の中で、一緒に遊ぶ楽しさを感じる ・言葉、モノを介しても意味の共有は難しい	・友達と一緒に楽しむことを感じる ・意味を理解して模倣をしてくれる大人がいることで、他者と意味の共有ができるようになっていく	・他者や対象世界からの刺激を受けて、世界が広がっていく ・生活体験以外のファンタジーなどのイメージも取り込み、共有されている ・保育者が出会わせたいものも広がる	・モノ、コト、ヒトとの関わりの広がりや深まりがある ・意味を共有し、自分たちで創り出していることとする	・学級全体でのつながりや流れが分かる ・めあてにむけて粘り強く取り組む ・言葉を介して意味の共有をする ・自分たちでしたことの楽しさや達成感を感じる
『恐竜になったんだ』 『これ、何の虫かな？』 『何入れようかな？』	『友達と一緒に楽しい』 『やってみたい！』 『魚すしだよ』	『えいようまんてん』 『ぼくもやりたい』 『年長さんみたいなレジャーがやりたい』	『人魚になりたい！』 『こんなことしたら面白い』 『家探しごっこ』	『カブトムシ遊してるわ』 『オリンピック選手になりたい！』 『どうやって作ろうかな？』	『僕たちの動物園の名前、どうしよう？』 『リボンになった！』 『チームに分かれたい』

中期の指導計画から抜き出した幼児の姿（期ごとの育てたい姿、対話的な学びの姿）

事例から明らかになった対話的な学びの特徴

特徴を一言で表す言葉は？

- モノや人との対話を繰り返し、対象がもつ面白さや関わり方と出会う。

出会う



- 自分のイメージとモノ、コトがつながり、実現していく。友達とのつながりができる。

つながる



- 人、モノ、コトとの対話が絡み合い、行き来しながら深まっていく。

深まる



- 対話的な学びの姿を整理すると **出会う** **つながる** **深まる** の3つの特徴にまとめることができた。
- 1つのエピソードの中にも **出会う** **つながる** **深まる** の特徴が複数見られることがある。



### 出会う

モノや人との対話を繰り返し、対象がもつ面白さや関わり方と出会う。

- 思いを受け止めてくれる人の存在を知る。
- 分かってもらえることの嬉しさをたくさん味わう。
- 不思議さを感じたり、発見を楽しんだりする。
- 身近な遊具、素材を操作したり、見立てたりする。
- 楽しそうな雰囲気を感じて、自分もやってみようとする。

#### 3歳 かしわもち、もっと食べて

- モノを使って遊ぶ楽しさ。
- 思いを受け止めてくれる大人の存在。

A児が砂場でおにぎりの型抜きに砂を詰めたものを保育者のところに見せに来ると、

「〇△×◇もち、〇△×◇もち」繰り返し言う。



「柏餅？」

「柏餅の葉っぱいる？」

保育者が聞くと、嬉しそうにならず。

前日に柏餅の葉に見立てて遊んでいたチューリップの葉が置いてあることを、A児に見えるように知らせる。

A児は、かごの中から自分で好きな葉っぱを選び、保育者のところへ持ってくる。持ってきた葉っぱでカップの上から包み、保育者に「柏餅食べる？」と手渡す。



「いただきませー、バクバク…」

保育者が食べる仕草をする。

その様子を嬉しそうに見ていたA児は、カップの中の砂を入れ替えながら保育者のところへ手渡しに来る。



「柏餅もっと食べる？」

A児は、保育者が自分の見立てを受け止め、応じてくれたことが嬉しく、繰り返し作り、食べてもらうことを楽しんでいた。

#### 対話的な学びの姿

自分のやりたいことや見立てていることを受け止めてくれる保育者に出会ったことで、モノを使って見立てて遊ぶことの楽しさを学んでいる。また、自分から思いを出して人に関わろうとしている。

#### 3歳 水が出てきた!

- 予想していなかった出来事に出会う。
- 不思議さや面白さを感じる。

B児は、地面に穴(排水口のふたの鍵穴)があることに気づき、手にしていた水仙の長い葉を穴に入れる。穴は、B児が思っていたよりも深かったようで、葉がどんどん下まで入っていくことに気付く。



「面白いね。」

保育者が言うと、

「うん、葉っぱがとんとん入っていくんだよ。」

B児が不思議そうに穴の様子を見ながら答える。

B児は、手で持つぎりぎりのところまで入れると、今度は葉を引き上げてみる。すると、葉の先に水滴がついて、地面に水が垂れる。

「うわぁ!水が出てきた!」

B児が言うと

「何てかな。お水、あるのかな。」

C児も不思議そうに葉っぱの先や穴の中を見ている。

「もう一回、やって見せて。」

と言うと、B児もうなずく。

「穴の下がさ、海になっ  
ているんじゃない？」

などと言いながら、二人でもう一度試してみる。



「ほら!水が出てきた!」

「やっぱり、お水、あるんだ!」

次も水がついて出てくると、嬉しそうに自分たちの発見を楽しんでいた。

#### 対話的な学びの姿

偶然見つけた穴と葉っぱで、不思議さや面白さを発見している。繰り返し試しながら、「やっぱり水があるんだ!」という確信になり、発見したことそのものの嬉しさも味わっている。

#### 3歳 あめだー!あめだー!

- 楽しそうな遊びの雰囲気の中に自分も加わる。
- 友達と同じことをする嬉しさを感じる。

壁面に雨の装飾をし、製作コーナーで傘を作るコーナーを設定した。

D児は、壁面の雨に気付く。保育者は傘をさすふりをしながら、D児に「傘さす?」と聞く。D児はすぐに自分の傘を作る。



「雨だー!  
雨だー!」

さっそくできた傘を持って壁面の雨の下に行き、嬉しそうに傘をさす。

「私の傘も欲しい!」

「ほくのは?」



「ほくのできた!!」

楽しそうな姿を見た幼児が次々に自分の傘を作り始める。自分の傘ができると、嬉しそうに手に持って傘を上下させたり、部屋の中を歩き回ったりする。

「雨で一す!  
雨で一す!」

一人が言うと、同じ場にいたみんなが自分の傘を手に持ちはじめ、車ごこの仲間も全員が傘をさして車に乗る。



「雨で一す!」

「大雨で一す!」

何度も何度も繰り返し言いながら、一緒に傘をさし、上下させたり、並んで歩いたりすることを楽しむ。

#### 対話的な学びの姿

友達の遊んでいる楽しそうな状況に出会っている。楽しそうな雰囲気を感じ、自分の遊びに取り込んだり、同じことをする楽しさを味わったりしている。



## つながる

自分のイメージとモノ、コトがつながり、実現していく。友達とのつながりができる。

- 自分の思いを表し、やってみようとする。
- イメージに合う材料を選び、実現していく。
- 自分のイメージが遊びにつながった嬉しさを味わう。
- 友達との関わりややり取りが生まれる。
- 遊びの状況やイメージが共有され、友達と関わって遊ぶことが楽しくなる。

### 4歳 宇宙船の仲間だぞ!

- 宇宙のイメージがつながる。
- 友達の動きや言葉を見聞きし、同じイメージの中で一緒に遊ぶ楽しさを感じる。



E児は、積み木で宇宙船を作り、宇宙ごっこをしている。

宝探しをしたいから、ダイヤモンド隠して。

F児が保育者に紙を丸めて作ったダイヤモンドを持ってくる。保育者はE児とF児の遊びがつながるのではないかと

E君、宇宙にダイヤモンド隠してもいい?

いいよ!

とE児が言うと、F児も宇宙船に乗せてもらうことになる。G児、H児も仲間になる。



宝を探しに行こう!

先生、地図がいて。

イメージを聞き取りながら、園庭を宇宙に見立て、保育者が地図をかくと、E児、F児、G児の3人で宝探しに行く。



宇宙船に戻るとH児が宇宙食を作って待っている。

これを食べると宇宙に行っても困らないよね。

元気も出るしすごいね!

と言いながら宇宙食を食べる3人の様子を見て、E児も真似して食べるふりをする。

その後、友達のを宝を探している様子を見て

ほくも宝を作ろう!

とH児に教えてもらいながらE児も宝を作る。

#### 対話的な学びの姿

保育者の関わりを受けて、友達とイメージがつながり、一緒に遊ぶことの楽しさが感じられるようになっていく。つながった嬉しさから、新たに友達のしていることを遊びに取り込んでいこうとしている。

### 5歳 ここがスタートだよ

- 言葉や動きで川の作り方を確かめていく中で、イメージが共通になっていく。
- 遊びの中で、自分の思いを表しながら遊ぶ。



川ができれば水を流そう!

川を作ろうという目的を共通にして、川を掘ったり橋を渡したりしている。

そろそろできるから、先生呼んでくる! 水出してもらおう!

川の形ができてくると、I児が保育者を呼びに行く。



どんな風にしたいの?

保育者が問いかける。

こっこの滝がスタート!

あっちが湖!

ここは川が合体するところ!

I児がイメージしたことを言葉で伝えていく。

J児は、その言葉を聞いているうちにイメージが分かってきて、水を汲みに行き、流し始める。



こっこの滝がスタートだよ。よし、いくよー!

共通のルールで水を流していく。

水が流れ始めると楽しそうな雰囲気にも他児も集まってきて仲間になる。別のイメージで形を変えたり遊び方を変えたりしようとする友達がいると、

ここは湖だからね。

などと、自分たちのイメージを伝え、共通にしながら遊びを進めていく。

#### 対話的な学びの姿

言葉や動きで川の作り方を確かめていく中で、遊び方やイメージが共通になっていく。遊びの様子が見えることでつながっていく姿もある。



# 深まる

人、モノ、コトとの対話が絡み合い、行き来しながら深まっていく。

- 繰り返し取り組む中で新たな発見をしたり、モノの性質に気付いたりする。
- 考えを伝えたり、聞いたり、考え直したりする中で新しい考えを生み出す喜びを感じる。
- 経験を基に遊びの意味を共有した上で、予測し、更に遊びを進めていく。

## 5歳 それいいね!

- 楽しさや遊びの意味が共有され、考えを出し合う。
- 共通の目的に向かって試行錯誤しながら進める。



年長組が遠足で井の頭公園に行った後、ヤマネコ迷路のビー玉ゲームを作ってお客さんと呼ぼうということになる。

草むらにあることにしよう! 木や草を作ろう!

板に色画用紙で木や草、山を作って貼り、ビー玉ゲームのコースを作る。今まで遊んできた経験からペーパー芯を半分に切っていく。

ペーパー芯を切ろうよ。たくさん作ろう!

友達が加わり、コースに使うためのペーパー芯をたくさん作りためていく。

### 2日目



ペーパー芯を貼り、ビー玉を転がすと勢いが付きすぎて、コースからビー玉が飛び出してしまふ。落ちないように筒のままのペーパー芯に付け替えてみる。しかし、ビー玉の転がる様子が何も見えないことに気付く。

ビー玉が見えないと楽しくないよ。

透明なシートがあるけれど、使ってみる?

保育者の提案を受けて、透明シートを筒状にして付け替えていく。

これなら見えて楽しいかも!

### 3日目



コースができあがり、転がしながら遊んでいる。

もう少し低くする?

板の角度を調整してビー玉がゆっくり転がるようにする。

台を置こうよ。

踏み台に乗ってビー玉の転がる様子が見えるようにする。

何度も転がして試しながら、お客さんが楽しめる方法を考えていく。

### 対話的な学びの姿

これまでの体験からビー玉ゲームの面白さが共有されている。もっと楽しくなるように考えを出し合っている。お客さんも楽しませたいという共通の目的に向かって試行錯誤しながら遊びを進めている。

## 5歳 僕たちが作るエルマーの冒険

- 共通の目的をもち、試行錯誤しながら課題に向かっていく。
- やりたいことのイメージが具体的になり、友達と相談しながら進めていく。

子供会へ向けて、学級のみんで「エルマーの冒険」の劇を作り始めた。場面ごとにグループになると、トラの場面の幼児もさっそく仲間と相談を始めた。



ドキドキする場面だから、怖がってほしいな。

僕たちは、こんな風に出てくるから、エルマーはこうやってびっくりするのはどう?

いいね! やってみよう! でも、トラたちも本当に怖そうにしてね?

登場の仕方や怖がる演技を考えた。

### 2日目



決まったことを受けて、保育者がホールに行って動いてみることを提案する。

ここから出たらいいかな?

一緒に出たらつまらないから、順番に出ることにする?

最後はみんなそろって脅かそうよ!

実際の場で動いてみることで新たな考えが出てくる。

次にホールを使うために来た別のグループの幼児が来ると、

かっこいいの決まったから見て!

エルマーが怖がってるの、お客さんには見えないよ。

### 3日目



見ていた幼児が指摘したことで、トラグループの幼児は困ってしまう。

グループでの話し合いでは行き詰ってしまったトラグループの幼児は、学級のみんに相談してみることにした。

みんな、どうしたらいいと思う?

エルマーはトラを見てないと怖がれないし、お客さんにも見えたほうがいいし...

自分たちが困っていることを一生懸命言葉にして伝え、いい考えをもらおうとする。

立つ場所を変えてみたらどう? 斜めにしたら...?

それならうまくいくかも!

今までに浮かばなかった考えの提案がある。

明日ホールでやってみよう!!

トラグループの幼児は新しい考えが見つかったことを嬉しそうに受け入れ、グループの仲間で翌日のめあてをもつ。

### 対話的な学びの姿

自分たちの劇を創るという共通の目的に向かって、グループの友達と相談して活動を進めている。学級の友達とも目的が共有されていて、自分たちのこととして考えを出し合う中で、新たな考えが生まれている。

# 対話的な学びの特徴に応じた援助・環境

対話的な学びを支えるためには、  
保育者自身が幼児や幼児を取り巻く環境と対話し、  
その時々の対話の姿を丁寧に  
捉えることが大切である。  
また、対話的な学びの特徴に即した  
援助が必要である。



## つながる

- 経験や技能を踏まえ、自分で選び、実現できるような素材や用具等を提示する。
- イメージを実現する楽しさや喜びに共感する。
- 遊びの場作りややり取りの仲介をしながら、遊びの状況やイメージを共有することができるようにする。
- 遊びの中で、楽しさや経験していることを言葉にし、意識化する。
- 共通体験を大切に、一緒に再現して遊ぶ楽しさを引き出す。
- 動きや掛け声がそろう楽しさや、ワクワク感が味わえるようにする。



## 深まる

- モノの性質や仕組みが分かる喜びを感じることができるまで、じっくり取り組めるようにする。
- 共通の目的をもてるような活動を取り入れたり、共通体験を生かしたりする。
- 互いに考えを出し合い、自分たちで進めていくことができるようにする。
- 様々な考えに触れ、考え直したり、考えを生み出したりする機会を作る。
- 考えを言語化し、考え合ったり伝え合ったりする姿を引き出す。
- イメージを表したり、共有したりするために視覚的な教材を活用する。
- 分かりやすい目的や課題に取り組む中で、友達と一緒に進めたり、話し合ったりする経験を重ねる。
- 試行錯誤しながら自分たちで進める姿に寄り添い、必要に応じて方法や手順を提示する。



## 出会う

- 幼児の思いを受け止め、信頼できる大人の存在になる。
- 簡単で、扱いやすい素材や遊具を提示し、繰り返し楽しめるようにする。
- 興味の対象に関わり、思考している幼児の姿に寄り添う。
- 幼児の思いや言葉を受け止め、一つ一つ丁寧に言葉で返す。
- 簡単な方法で、やりたいことを再現したり、なりきったりできるようにする。
- 友達と一緒に過ごしている楽しさが感じられる場や活動を作る。

## ICT機器の活用

～対話を引き出す手掛かりとして～

発見したことを学級全体に紹介する、製作物や遊びの様子を話すなど、具体的な写真や映像があることで、イメージが伝わりやすい。また、幼児自身も写真を見ながら話すことで遊びや気付きを振り返ることができる。言葉に表すことで、改めて考えることにつながる。

ICT機器を使った効果

幼児の変化

### 身近な生き物を写真で見ると

- 画面で拡大し、細部まで見ることができるため、特徴や面白さに気付きやすい。
- 見つけたもの、気付いたことなどを、友達や保育者に伝えたい気持ちが増す。
- 「写真に撮って!」「これ映して。」など、学級で情報を共有しようとする。

### 遊びを紹介する

- 映像を手掛かりに自分の思いを友達に伝えやすくなる。
- 伝えようという意欲が増す。
- 言葉に加えて、具体的なイメージがあることで友達の刺激を受け、自分も取り入れてやってみようとする。

### その他

- お話作り(自分でかいた絵)や劇遊びの一場面など、様々な活用している。



## 研究のまとめ

- 「対話的な学び」には、**出会う** **つながる** **深まる** という特徴が見られる。幼児は、人、モノ、コトなどの対象との対話の中で、様々な思考力を働かせている。そして、**出会う**・**つながる** という経験を重ねていくことで、「対話的な学び」が **深まって** いく。
- 学年の発達の特徴として、次のような「対話的な学び」の姿が多く見られる。  
3歳児：**出会う** ことを楽しみながら、対話の対象が増え、広がっていく。  
4歳児：新しい **出会い** を繰り返しながら、自分のイメージや友達と **つながる** 姿が増えていく。  
5歳児：**出会った** 人・モノ・コトと自ら **つながり**、試行錯誤しながら学びが **深まって** いく。
- 「対話的な学び」の特徴に応じた適切な援助は、幼児期の思考力の育ちを支える。  
**出会う** **つながる** **深まる** という「対話的な学び」の特徴を保育者が理解し、幼児期の思考力を育てるための援助や環境構成を工夫することで、幼児の遊びが豊かになる。  
保育者自身が幼児や幼児を取り巻く環境と対話的に関わり、幼児の対話的な学びの姿や遊びの楽しさを感じ取ることが大切である。
- 幼児期の思考力は小学校以降の思考力・判断力・表現力などの基礎となる。  
遊びや生活の中での豊かな体験を通して育まれた幼児期の思考力は、小学校以降の思考力・判断力・表現力などの基礎となる。幼児期の思考力を育むための遊びや生活を充実させることは、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ることにつながる。



保育者が幼児にとって信頼できる存在となり、幼児一人一人と対話しながら、環境を整えたり援助をしたりすることで、幼児の思考が引き出され、遊びが豊かになる。  
遊びの中で幼児が人・モノ・コトと対話し、より遊びが楽しくなる経験を重ねることは、幼児が自ら主体的に関わり思考する姿につながる。

## 今後の課題

保育者をはじめとし、全職員が幼児との対話を大切にするという姿勢をもつことは、園全体で幼児の育ちや学びを支えていくために欠くことのできない大切な要素である。これからも、「対話的な学び」を大切にしながら幼児理解の共有を重ね、幼児期の思考力を育てていくことができるよう、研究を深めていきたい。

### おわりにかえて ～保育者自身が対話を通して学んだこと～

副園長 齋藤 由美

本研究に取り組む中で、事例を基に幼児の対話する姿について話し合う機会を多くもつことができました。その中で、保育者が対話的であることの大切さを改めて感じました。保育者から「幼児が対話している対象が見えるようになってくると、『出会う』『つながる』などの対話の特徴も見えるようになった。」「対話の特徴が見えるようになってくると、幼児の育ちを捉えやすくなった。」「対話の中に遊びを楽しむヒントがあり、次の手立てが見付けやすくなった。」「幼児の対話が生まれる環境の在り方を考えることで幼児理解が深まり、個々の課題も見えてきた。」「幼児の姿を保育者同士で話すことが多くなり、自分だけでは気付かなかった幼児の対話や必要な援助、環境など新たな気づきができた。」という声が聞かれました。これからも保育者自身の対話も大切にしていきたいと考えています。

### ■御指導いただいた先生 聖心女子大学教授 河邊 貴子先生

#### ■研究に携わった教職員

園長	長：五十嵐 美緒子	3歳児(ことり組)：内野 美香 / 柴田 陽	保育補助	大塚 文子 / 中村 裕香 / 森 和代	
副園長	長：齋藤 由美	4歳児(うさぎ組)：五十嵐 まゆみ / 山口 優香		高橋 順子 / 中島 裕美 / 宮崎 瞳	
主任	査：榊原 恭子	5歳児(ぞう組)：齋藤 由美 / 松原 真理子	用務調理主事	村上 美津子 / 西野 真澄	
主任教諭	菊池 百代	保育助手	手：藤井 慶子 / 佐野 恵 / 竹内 三重	看護師	森 貴美
		介助員	安藤 清子 / 小澤 留理子 / 石塚 佳美	平成 28 年度	小川 望 / 佐藤 由美 / 野村 絵美
			中山 由美 / 吉野 明香 / 高桑 容子		